「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

「⑦本時のねらい」の書き方について

※ＡＢＣの３要素を入れる。

Ａ　学習内容（～を、～について、など）

Ｂ　学習活動（○○をとおして、○○と比べることによって、など）

Ｃ　育成をめざす資質・能力（△△できるようにする、△△に気付くようにする、など）

※Ｂにおいては、「考えるための技法」（思考スキル）を意識する。

　　　アイデアを出す（ひろげる）、比較する（くらべる）、分類する（わける）、判断する（えらぶ、きめる）

　　　仮定・予想・推論する（よそうする）、関係付ける（つなげる）、順序付ける（ならべる）、

　　　単純化・抽象化する（かんたんにする）、理由付ける（わけをいう）、分析する（さぐる）、

　　　要約する（まとめる）、構造化する（くみたてる）、多面的・多角的に見る（みかたをかえる）、

焦点化する（しぼる）、見通す、計画する、整理する、振り返る、評価する、など

参照：小学校学習指導要領(H29告示)解説　総合的な学習の時間編　p.84

　　　　　　　　　　　　中学校学習指導要領(H29告示)解説　総合的な学習の時間編　p.80

「⑧本時の評価規準」の書き方について

※「ねらい」と「評価規準」を対応させる。文末は「～している」。【　】には、評価の観点を記す。

※実際の評価場面を想定し、〔　〕には評価方法を記す。

※教科によっては「～できる」と表現する場合もある（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料）

「⑨展開」の書き方について

「めあて」

※本時（または単元や題材）でめざす「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を記す。

「課題」

※本時に解決すべき事柄を記す。内容のまとまり等の複数時間にまたがり追究していく課題もあり得る。

「なぜ～なのか」「～することができるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。

※児童生徒が追究したい（調べてみたい、考えてみたい）と思う課題を設定することで主体的な学びへと誘う。

その際、以下の要素のいずれかがあるように工夫する。

①既習事項とのズレがある。

②意見の対立や拮抗が生じる。

③既習事項や対話を活用して、児童生徒自らが解決できる適度な壁がある。

④素朴な驚きや疑問、対象への憧れから問題意識が醸成される。

「まとめ」

※本時の課題に対する答え・結論を記す。授業中に出された言葉や授業のポイントとなる言葉を生かし

　ながら、児童生徒とともに作り上げ、共有するイメージでまとめを想定しておく。

「振り返り」

※単に技能の定着を図るために練習問題を位置付けるのではなく、以下のような活動を行う。

　　①学習のプロセスや成果を振り返る。（この学習で何ができるようになったのか。など）

　　②これまでの経験や学習と関連付ける。（既習事項とどんな関連があるか。など）

　　③次回の学びへつなげる。（もっと調べたいことは何か。次は何をすべきか。など）

「Ｃ:努力を要する」状況の児童生徒への手立て

※いわゆるＣ層の児童生徒のうち、個別の指導計画の作成を必要としない児童生徒に対し、

本時の評価規準「Ｂ」に到達できるようにするための具体的な手立てを記す。

「特別な支援等の配慮を要する」児童生徒への手立て

※「個別の指導計画」に基づき、「読み」「書き」「計算」「注意」「対人関係」など学習上の困難さに応じて

　合理的配慮を含む手立てを記す。複数の手立てを講じる場合は、校内で特に共有したい手立てを記す。

「板書計画」の書き方について

※児童生徒の思考に沿って事実や意見を整理できるように、児童生徒の出方を想定して構造化する。

参照：リーフレット「新大分スタンダードのすすめ」（第３版）平成３１年３月　大分県教育委員会ＨＰ

新大分スタンダードに基づく授業改善Ｑ＆Ａ　令和２年３月　　大分県教育委員会ＨＰ

「新大分スタンダード」に基づく学習指導案例　令和２年４月　日田教育事務所ＨＰ

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | ②職名・授業者氏名 | ③教科 | ④ペアでの話合い活動 | ⑤グループでの話合い活動 |
| １年１組 | 教諭・日田　太郎 | 国語 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | ようちえんにとどける　じどう車ずかんを　つくろう |
| ⑦本時のねらい | 自分の選んだ自動車について調べたことを、取材メモの「しごと」と「つくり」を照応させることによって、説明に必要な事柄を確かめ伝えたいことを明確にできるようにする。 |
| ⑧本時の評価規準 | 【思考・判断・表現Ｂア】「しごと」に合った「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。〔ノート〕 |
| ⑨展開 | めあて | 自分の自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書こう。 |
|  | 課　題 | 調べたことを、どのように使うとよいかな。 |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て・モデルの説明文と取材メモに書かれた事柄を色分けしながら照応させ、文章に入れていない事柄をとらえやすくする。・接続語「そのために」の使い方を、既習の説明文「じどう車くらべ」を基に確認させる。 |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て・文字を書くことが苦手な児童に対して、大きなマス目のノートを用意し、状況に応じて書く量を減らす。 |
| まとめ | 知らせたい「しごと」に合った「つくり」を、調べたことから選んで書くとよい。 |
| 振り返り | 知らせたいことを一つだけにすると、上手につなげて書けたよ。 |
| 板書計画めあてじぶんの じどう車の 「しごと」と「つくり」をせつめいする 文しょうを かこう。かだいしらべたことを、どのようにつかうとよいかな。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けがをした人やびょうきの人をはこぶ。いそいではしる。 | しごと | きゅうきゅう車 |
| うごかせるベッドがある。うんてんせきのうしろがひろい。サイレン。 | つくり |

しらべたことをぜんぶつかっていない。まとめしらせたい「しごと」にあった「つくり」を、「しごと」と「つくり」があっている。しらべたことから えらんでかくとよい。ふりかえりしらせたいことを 一つだけにすると、じょうずに つなげて かけたよ。 |